

「あっ！ 飛びあがった！！」

「ヒャー！！」

群れていた1頭が、とつぜん水しぶきをあげて空中へまいあがりました。5～6mはありそうな大きな体が、3mくらいの高さまで飛びはねたのです。その迫力に、高橋さんと鈴木さんはびっくりして、思わず大声をだしてしまいました。

「尾ビレの裏側が白くて、黒いふちどりがあつたじやろう。あれはイルカではなくてシャチじゃ。背ビレの高さが1m以上あつたから、オスのシャチじゃな」

船長さんの話は続きます。

オスの背ビレはピンとそびえたってヨットの帆のようですが、メスの背ビレは後ろにかたむき、太めの三日月の上半分を切りとったような形をしているので、ひと目でわかるそうです。

また、シャチはパンダのような白黒のもようがはっきりしていて、両目のななめ上には、アイパッチとよばれる白いオムレツのような形のもようがあり、背ビレの根もとにも、サドルパッチとよばれるもようがあることを教えてくれました。「あいつら、ただ泳ぎまわっているんじゃなくて、えものを追いまわしているようじゃな」



船長さんがシャチの動きを見ながらいきました

「あれっ、1頭だけこっちにむかってくる！」

鈴木さんが指さします。

水面につきでた背ビレが、すごい速さで近づいてきます

「何かを追いかけてるぞ！」

高橋さんも船から身を乗りだすようにして見つめます。

「あれっ！ 船尾に何かが！」

鈴木さんが、とつぜんさげびました。

「ラ、ラッコだ！ ラッコが船尾のステップ板に飛びのってきた。いっ、いっぺんに2頭も！！」

高橋さんも、びっくりして、しどろもどろです。

